

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農業使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第3号 畑作物

発行日 平成28年 5月26日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ（電話 0197-68-4436）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net/agri/>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

◆ **小麦** 小麦は平均気温が平年を上回る状況が続いており、平年より生育・出穂が5日程度早まり、県中南部では下旬から赤かび防除が始まってきています。生育は平年より穂数が多い一方、一部で湿害や縞萎縮病の影響がみられます。平年より生育が早まっていることから、成熟が早まる可能性があります。収穫作業に備え、乾燥施設との連携や収穫機械の整備などを行い、万全の体制で臨みましょう。

◆ **大豆** 排水対策・耕起・砕土などを丁寧に行い、土壌条件を整えましょう。種子消毒・播種・除草剤の散布などは計画的に実施し、初期生育を確保しましょう。

## 小麦

### 1 赤かび病の防除

4月第6半旬を除き越冬後から気温が平年を上回って推移したことから、小麦の生育・出穂は平年に比べ概ね5日程度早まりました。今春は昨年・一昨年と異なり、4月以降降雨が多く、5月上旬にかけてやや湿害傾向が見られましたが、全体に穂数は平年より多く確保されています。また、縞萎縮病の発生が多く、一部では症状の回復が遅れている圃場もみられます。県中南部では5月中下旬頃から開花が始まっており、赤かび防除も行われています。これから防除を行う地域では、開花状況を見極めた上で適期に散布してください。赤かび病の薬剤防除は、品種や天候によって2回目、3回目の散布が必要になりますので、表1を参考に防除を行きましょう。

穂が緑色のうちに圃場を見回り、赤かび病にかかっているものを抜き取りましょう。また、赤かび病が多発した場合は、刈り取りを別とし、健全粒に赤かび粒が混入しないようにしましょう。

表1 赤かび病防除の考え方

品種	開花期 (1回目散布)	1回目散布の 7～10日後	2回目散布の 7～10日後
ナンプコムギ	◎ (必須)	○ (曇雨天が続く時)	—
ゆきちから 銀河のちから ネバリゴシ	◎ (必須)	◎ (必須)	○ (曇雨天が続く時)

### 2 乾燥・調製施設との連携

- (1) 全般に出穂が平年より5日程度早まったことなどから平年より成熟が早まる可能性があります。また、小麦の収穫時期は梅雨と重なるため、実際の刈取り期間はかなり短くなります。このため、適期内に収穫できるよう、圃場排水対策や機械等の点検整備を早めに行っておきましょう。
- (2) 施設を利用して乾燥・調製を行う場合は、施設側との連携を深め、計画的に収穫作業ができるよう、収穫・受け入れ体制を今から十分に整えておきましょう。

# 大豆

## 1 排水対策の実施

- (1) 排水不良は出芽不良を誘発するだけでなく、根粒の着生を抑制します。
- (2) 播種前に弾丸暗渠やサブソイラ等を用いて排水対策を講じましょう。特に転作田では必ず畦畔の内側に溝幅 20～30cm、深さ 15～30cm の溝（額縁明渠）を作り、圃場水尻の排水口につなぎましょう。排水溝の設置は、夏期の干ばつ時に畦間灌水を実施する際にも役立ちます。
- (3) 基盤整備の事後転作圃場は一般に重機による転圧等で透水不良となっています。排水口を深く掘り下げて額縁明渠につなぐなどの対策を必ず行いましょう。

## 2 施肥・耕起・碎土・整地

- (1) 碎土をできるだけ丁寧に行いましょう。仕上がりが不均一だと、除草剤の効果が低下したり、薬害の誘発、播種精度の低下に伴う出芽不良などの原因となります。
- (2) 耕うん・碎土後（特にロータリ耕後）は、土壌が水分を含みやすく、乾きにくくなります。播種スケジュールと天候の動きをみながら、柔軟に作業日程を立てましょう。
- (3) 整地終了後～播種前に雑草が目立つ場合などでは非選択性除草剤を有効に利用しましょう。

## 3 播種作業…栽植密度を確保するため次の点に留意を

### (1) 播種適期

概ね表 2 のとおりです。播種作業は適期内に行いましょう。ただし、圃場が滞水するような条件や、播種前後に大雨が予想される時は出芽が劣るので作業を控えます。逆に乾燥しすぎた土壌条件で播種すると出芽が遅れるので、こうした場合は覆土をやや厚くします。

表 2 大豆の品種別地帯別播種適期

早晚性	品 種 名	県北部	県中部	県南部
極早生	ユキホマレ	6/ 5～6/25	6/20～7/10	7/ 1～7/20
晩生	ナンブシロメ・シュウリュウ	5/20～5/31	5/15～6/ 5	6/ 1～6/20
晩生	リュウホウ	—	5/15～6/ 5	6/ 1～6/20
中生	すずほのか（標播） （晩播）	5/20～5/25	5/15～5/31	6/ 1～6/15
		—	6/ 1～6/5	6/16～6/20
晩生	コスズ	5/20～5/25	5/15～5/31	6/ 1～6/15
中生	南部黒平	5/20～5/31	5/15～5/31	6/ 1～6/20
晩生	青丸くん	5/20～5/31	5/15～6/ 5	6/ 1～6/20
極晩生	岩手みどり、ミヤギシロメ	—	—	5/20～6/ 5

### (2) 播種様式

畦幅（条間）は、その後管理する機械に合わせて設定します。品種別の栽植密度は表 3 を目安にしてください。

表 3 普通大豆の品種別栽植密度と播種量

項目	ユキホマレ	ナンブシロメ	リュウホウ	青丸くん	シュウリュウ
栽植密度(本/10a)	2万～3万	1万～1万2千	7千～1万5千	1万～1万2千	1万～1万5千
畦間×株間(cm) *	70×14～9	70×30～24	70×40～20	70×30～24	70×30～24
	30×30～22				
播種量(kg/10a)	6～9	2.5～3	2.5～5	2.5～3	3.5～5.3

\*) 畦間を 70cm、1株2本立てとした場合を示しています。

播種量は**百粒重**で変化するので注意が必要です。表は標準の百粒重の例です。

「ユキホマレ」の麦後栽培では、畦間 30cm 前後の狭畦密植とします。

「リュウホウ」は、播種期により栽植密度を調整します（晩播ほど密植とします）。

### (3) 播種量

同じ栽植密度でも種子の大きさにより播種量が変わりますので、適正な栽植密度となるよう、種子の大きさに応じて播種量を決めましょう。28年播種用種子は27年播種用種子同様に百粒重が約1割程度大きめと推定されます。このため、表3の播種量よりも1割程度播種量を増やすことを推奨します。例えばシュウリユウの場合は4kg/10a以上を確保するように調整しましょう。

### (4) 青立ち対策

27年産ではあまり問題になりませんでしたでしたが、平成26年産大豆では青立ちの発生がやや目立ちました。青立ちの発生原因は多岐にわたりますが、本県の場合、①一株単位での生育過剰、②一株莢数の減少、などが主な原因と考えられます。このうち、一株単位での生育過剰を防ぐには、疎播にならないように、「適切な播種量を確保」することなどが重要です。特に大粒品種では入念な播種量の調整・確認を心がけましょう。

### (5) 病害虫防除・・・種子消毒を徹底

紫斑病やタネバエ防除のため、チアメトキサム・フルジオキシニル・メタラキシルM水和剤（商品名：クルーザーMAXX）で種子消毒をします。必ず塗抹後に十分に乾燥したことを確認した上で、播種してください。

### (6) 雑草防除

ア 播種後の土壌処理剤の散布は必須です。播種後すぐに散布できるよう作業を組みましょう。また、土壌が乾いている時は、希釈水量も上限量で均一に散布し、処理層の形成に努めましょう。  
イ 覆土が浅すぎる場合は葉害の生じる場合があります。覆土は2～3cm以上確保しましょう。一般に大粒品種は覆土が浅いと種子が露出しやすいので注意してください。

### (7) 中耕培土・・・中耕培土で生育の安定化を

ア 中耕培土には次の効果があり、生育を安定化するのに役立ちます。  
①雑草防除、②倒伏防止、③土壌の通気性を良好にし、地温を上昇させ根の機能を向上させる  
④発根を促進し、根群を発達させる、⑤土壌の排水を良好にする、などです。  
中耕培土の時期は大豆2～3葉期と5～6葉期が一般的ですが、雑草の発生時期に応じて（除草剤の効果がなくなってきたら）、雑草が小さいうちに行うことが重要です。培土の高さは、コンバイン収穫の場合はあまり高くしないこと（おおむね1葉節以下）に留意します。また、汚損粒の発生を防ぐため、培土の高さは一定となるようにします。  
イ ディスク式中耕除草機：近年ディスク式中耕除草機の普及が進んできています。ディスク式中耕除草機の主なメリットは、①湿潤土壌でも土の練りが少なく適期作業が可能、②作業能率・燃費に優れる、③畦立て栽培に適しており除草効果が高い、などが挙げられます。詳しくは農業改良普及センター等に問い合わせください。

**春の農作業安全月間実施中！**

[ 4月15日  
～6月15日 ]

**互いに声かけ 農作業安全**

次号は6月30日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。